

2013/11/18

☆ 北米派遣団 帰国報告 ☆

日米両政府間の KAKEHASHI-Project により千葉県代表として米国に派遣された 23 名が 12 日間の研修を終え 11 月 6 日夕刻無事に帰国しました。

第 1 の訪問地ワシントン DC では参加 7 校全 150 名での研修を受けました。プレゼンテーションリハーサルも行われ、プレゼン後の質疑応答の場面で長生高校生徒が活発に質問をしました。これに触発された他校生徒も少しずつ発言をするようになり、研修会場が熱気に包まれました。

2 日目はジョージワシントン大学で日本語の授業に参加後、リンカーンメモリアル、ワシントンモニュメント等を駆け足で見学し宿舎に戻りプレゼン練習を行いました。



3 日目朝、素晴らしい知らせがもたらされました。この日夜の日本大使館でのプレゼンテーション発表を行う学校に選ばれたのです。「日本のおもてなし」という題材が評価されたことはもちろんのこと、1 日目の研修で見せた臨機応変なコミュニケーション力が評価されたようです。日頃のオールイングリッシュの授業の成果といえるでしょう。発表グループは移動のバス車中でもガイドさんから発音等の指導を受け、練習を繰り返しました。午前中に国会議員会館を訪問後、地元のポールインターナショナルハイスクールで 1 回目のプレゼンテーション。まだ固さの残る発表でしたが、「教育的な内容で素晴らしかった。」という評価をいただくことができました。



午後 6 時、いよいよ大使館でのレセプションが始まりました。桜色の絨毯が敷かれたホールに 300 人近い人々が集まり、黒服のウェ이터が銀盆にのせた飲み物を振る舞う様子は、まさにテレビや映画で見る社交界そのものでした。長生高校のプレゼンテーションが始まると、会場全体から大きな拍手が起こりました。発表者 4 名の緊張は想像に難くありませんが、残りの 19 名が最前列に進み彼女たちを間近で見守ることで 23 名全員が発表している気分を味わいました。発表者は満面の笑顔で堂々と日本の魅力を紹介しました。会場から笑いや納得の反応がある度に発表者の言葉に魂が吹き込まれ、ますます生き生きとしてきました。「2020 年の東京オリンピックにお越しください。日本のおもてなしをお見せします。」という締めくくりに喝采が浴びせられました。

緊張から解放された発表者の目には涙があふれ、長生高校全員で成果をたたえ合いました。外務省の方からも賞賛の言葉をいただきました。その後のパーティーでアメリカの方々と楽しそうに談笑する全員の姿には、大仕事を終えた自信がみなぎっていました。

緊張から解放された発表者の目には涙があふれ、長生高校全員で成果をたたえ合いました。外務省の方からも賞賛の言葉をいただきました。その後のパーティーでアメリカの方々と楽しそうに談笑する全員の姿には、大仕事を終えた自信がみなぎっていました。

10 月 31 日（木）いよいよ楽しみにしていたクラシカル高校訪問の日がやってきました。政府機関や記念碑等が並ぶ計画都市ワシントン DC とは全く趣の異なるプロビデンス市は、ペリーが黒船で出国した場所です。大西洋に面した美しい避暑地であるとともに、ブラウン大学に象徴される学問の都でもあります。かつては富裕層が多かったこの都市にも現在は貧富の差が広がっているとのこと。クラシカル高校前では生徒たちが手を振って出迎えてくれました。中にはゾンビに扮している生徒も見えます。どうやらハロウィーンの仮装で授業を受けていたようです。7 月に彼らを受入れた長生高校生徒にとっては感動の再会となりました。その後、図書室で日本語選択生徒たちが歓迎会を開いてくれました。その場では「日本のいろいろな高校生」と「アニメに見る日本人の精神性」の二つのプレゼンテーションを披露しました。ピカチュウ、サトシ、ニャース、オーキド博士のコスプレをした発表者 4 人はすぐに会場の人気者となり、地元新聞の取材を受けました。日本の高校生の実態を紹介したグループも自然な語り口でクラシカル高校生徒の心をつかみました。この二つのグループは前夜遅くまで高校生向けに発表内容を修正して練習していましたので、発表の成功は大きな喜びでした。そしてこの夜から 3 泊のホームステイが始まりました。31 日の夜には街に出て本物の "Trick or treat!" を体験し、袋いっぱいキャンディーをもらった生徒もいました。



11 月 3 日（日）早朝にクラシカル高校に集合し、ホストファミリーとの別れを惜しみつつバスに乗り。ニューアーク国際空港を経由して最終訪問地テネシー州ナッシュビルに向かいました。この経由地はニューヨーク市に隣接しており、離陸の際には眼下にマンハッタンの摩天楼と自由の女神を見ることができました。ホテル到着後、バスでダウンタウンへ。河畔で行われているコンサートに音楽の聖地ナッシュビルを感じながらブロードウェイ通りへと入ると、"This is America!!" と言わんばかりの街並

みが目に飛び込んできました。カウボーイブーツを売る店、カウボーイハットを被って馬車を操る人、そしてどの店からも流れてくるカントリーミュージック。誰もが思わず歓声をあげていました。ほんの短い時間でしたが南部の雰囲気を感じることができました。この夜は翌日のミドルスクール訪問に備え、再びプレゼンテーションを修正。実際の発表の場では聞き手を引き込む発表者の話術に 11 歳から 14 歳の子供たちも満足していました。

約 10 日間の米国滞在を通じて、団員たちの成長ぶりには目を見張るものがありました。内容の濃いプレゼンテーションを単なる丸暗記でなく生きた英語を駆使して行う姿に、ネイティブスピーカーからも驚きの声があがりました。英語力の成長以上に、彼らの内面が日々洗練され、思いやりに溢れていく様子に引率者も感動を覚えました。この研修が団員にとって新たな飛躍のステップングストーンになることは間違いないと確信しています。

リーダーである糸久くんの言葉、「自分一人の思い出にとどめず、友人たちに感動を分かち合うことが恩返しである。」こそ彼らの成長の証と言えましょう。



米国国会議事堂 (Capital) 前

(引率者代表 百瀬美帆)

10月31日(木) いよいよ楽しみにしていたクラシカル高校訪問の日がやってきました。政府機関や記念碑等が並ぶ計画都市ワシントンDCとは全く趣の異なるプロビデンス市は、ペリーが黒船で出国した場所です。大西洋に面した美しい避暑地であるとともに、ブラウン大学に象徴される学問の都でもあります。かつては富裕層が多かったこの都市にも現在は貧富の差が広がっているとのこと。クラシカル高校前では生徒たちが手を振って出



迎えてくれました。中にはゾンビに扮している生徒も見えます。どうやらハロウィーンの仮装で授業を受けていたようです。7月に彼らを受入れた長生高校生徒にとっては感動の再会となりました。その後、図書室で日本語選択生徒たちが歓迎会を開いてくれました。その場では「日本のいろいろな高校生」と「アニメに見る日本人の精神性」の二つのプレゼンテーションを披露しました。ピカチュウ、サトシ、ニャース、オーキド博士のコスプレをした発表者4人はすぐに会場の人気者となり、地元新聞の取材を受けました。日本の高校生の実態を紹介したグループも自然な語り口でクラシカル高校生徒の心をつかみました。この二つのグループは前夜遅くまで高校生向けに発表内容を修正して練習していましたので、発表の成功は大きな喜びでした。そしてこの夜から3泊のホームステイが始まりました。31日の夜には街に出て本物の”Trick or treat!”を体験し、袋いっぱいのキャンディーをもらった生徒もいました。



11月3日(日) 早朝にクラシカル高校に集合し、ホストファミリーとの別れを惜しみつつバスに乗車。ニューアーク国際空港を經由して、最終訪問地テネシー州ナッシュビルに向かいました。この経由地はニューヨーク市に隣接しており、離陸の際には眼下にマンハッタンの摩天と自由の女神を見ることができました。ホテルに到着し、バスでダウンタウンへ。河畔で行われているコンサートに音楽の聖地ナッシュビルを感じながらブロードウェイ通りへと入ると、”This is

America!!”と言わんばかりの街並みが目に飛び込んできました。カウボーイブーツを売る店、カウボーイハットを被って馬車を操る人、そしてどの店からも流れてくるカントリーミュージック。誰もが思わず歓声をあげていました。ほんの短い時間でしたが南部の雰囲気を感じることができました。この夜は翌日のミドルスクール訪問に備え、再びプレゼンテーションを修正。実際の発表の場では聞き手を引き込む発表者の話術に11歳から14歳の子供たちも満足していました。

約10日間の米国滞在を通じて、団員たちの成長ぶりには目を見張るものがありました。内容の濃いプレゼンテーションを単なる丸暗記でなく生きた英語を駆使して行う姿に、ネイティブスピーカーからも驚きの声があがりました。この研修が団員にとって新たな飛躍のステッピングストーンになることは間違いありません。自分一人の思い出にとどめず、友人たちに感動を分かち合うことが恩返しであると誓い合っています。